

低入札契約はゼロ

技術高得点者の落札増加

四国地方整備局がまとめた2007年度「総合評価方式による契約結果等報告」によると、契約件数759件のうち低価格は、06年度は18件試行の

格入札者との契約はなかった。特に施工体制型確認総合評価落札方式（うち608件試行）の本格導入で開札時に45件の低価格入札が発生したものの、最終的な契約時には低価格入札者の落札はなかったことが明らかになった。Ⅱ一面参照

状況分析では、平均落札率は、05年度の総合評価以外の率が94・1%だったのが、06年度91・0%、07年度91・6%とほぼ横ばい、下げ止まりとなっている。

うち、開札時低入札が6件、低価格入札者の評価値トップ（施工体制型確認）が3件となっていたものの、結果的に低価格入札者との契約はなかった。07年度は608件試行のうち、開札時低価格入札が45件、低入札価格者の評価値トップ（施工体制型確認前）が29件となっていたものの、結果的に低価格入札者との契約はなかった。

入札価格と加算点の分析では、技術点の高い業者の落札が06年度53%、07年度59%、技術点の低い業者の落札が同20%から同14%で技術点の高い業者の落札が増加している。

落札価格の分析では、落札率が低くなるほど、「工事成績評価点」が平均点以下工事や「下請け企業」が赤字の工事割合が増加している傾向がみられる。特に、おおむね落札率85%を境に以上・未満では特徴が顕著に表れた。これを反映して調査基準価格を従来の「75%」から「76%」と算定していたのを、08年4月から約5%アップさせ、「80%」から「81%」に算出する方法での見直しをスタート。これにより、品質確保を図る見通しだ。

総合評価落札方式での低入札契約工事の発生状況では、05年度が166件のうち21件（12・7%）、06年度が704件のうち42件（6・0%）、07年度は759件のうちゼロ件となった。

施工体制型確認総合評価落札方式試行の状況で